

平成29年度 お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学 専攻 ・ 心理学 コース

（ 推 薦 入 試 ）

（ 外 国 語 試 験 ）

試 験 日 : 平成 28年 8月 18日(木)

試 験 時 間 : 9時 30分 ~ 11時 30分

【注意事項】

1. 監督者の「始め」の合図があるまで問題冊子を裏返しにしたままにしておくこと。
2. 辞書の持込みは不可。
3. 問題1、問題2、問題3は、それぞれ別の答案用紙に解答すること。
4. 解答にあたっては、問題番号を答案用紙に明記すること。
(例:問題1-問2)
5. 答案用紙がさらに必要な場合は申し出ること。

問題1 次の英文を読み、問1～3に答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(出典 : Kahneman, D. (2011). *Thinking, fast and slow*. New York: Farrar, Straus and Giroux. Pp. 398-399. および P.20.より。一部改変。)

- 問1 下線部(1)では、グラフが"nervous laughter"を引き起こすと書かれているが、筆者はこの理由について、本文中でどのように説明しているか述べなさい。(15点)
- 問2 下線部(2)を日本語に訳しなさい。(20点)
- 問3 下線部(3)を日本語に訳しなさい。なお、人名は原文どおりの表記で構いません。(15点)

問題2 次の英文の全文を、日本語に訳しなさい。なお、訳す際、数値や数値に関わる記号は原文どおりの表記で構いません。(30点)

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

(出典：Everitt, B. S., & Howell, D. C. (2005). *Encyclopedia of statistics in behavioral science*. West Sussex: Wiley. P. 158.より。)

問題3 次の英文を読み、問1～2に答えなさい。なお、訳す際、数値や数値に関わる記号は原文どおりの表記で構いません。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

(出典 : Everitt, B. S., & Howell, D. C. (2005). *Encyclopedia of statistics in behavioral science*. West Sussex: Wiley. P. 209.より。一部改変。)

問1 ()に入る分析名を英語もしくは日本語で答えなさい(2箇所とも同じ分析名が入ります)。(5点)

問2 下線部を日本語に訳しなさい。(15点)

平成29年度 お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学 専攻 ・ 保育・児童学 コース

（社会人特別・推薦入試）

（ 外 国 語 試 験 ）

試 験 日 : 平成 28年 8月18日(木)

試 験 時 間 : 9時30分 ~ 11時30分

【注意事項】

1. 監督者の「始め」の合図があるまで問題冊子を開けないこと
2. 試験中、用のある場合は手を挙げて監督者を呼ぶこと
3. 問題毎に答案用紙一枚を使用し、問題番号を明記すること

問題 1 次の英文を和訳しなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

出典: Dunlop, A-W. (2007). Bridging research, policy and practice. In A-W. Dunlop & H. Fabian (Eds.), *Informing transitions in the early years* (pp. 151-168). New York: Open University Press.

問題2 次の英文を和訳しなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

出典: Hatch, J. A. (2007). Assessing the quality of early childhood qualitative research.
In J. A. Hatch (Eds.), *Early childhood qualitative research* (pp.223-244). New York:
Routledge.

平成29年度 お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学 専攻 ・ 保育・児童学 コース

（社会人特別・推薦入試）

（ 専 門 試 験 ）

試 験 日 : 平成 28年 8月18日(木)

試 験 時 間 : 13時00分 ~ 15時00分

【注意事項】

1. 監督者の「始め」の合図があるまで問題冊子を開けないこと
2. 試験中、用のある場合は手を挙げて監督者を呼ぶこと
3. 問題毎に答案用紙一枚を使用し、問題番号を明記すること
ただし問題内に別途指示がある場合は、それに従うこと

問題 1

次ページ以降に《問題 1 資料》として示すのは、ある幼稚園の年長クラスの絵本コーナーを「絵本を読む場所」として定着させるべく半年にわたって行われた一連の調査の資料である。資料を見て次の 2 つの問いに答えなさい。

(1) 「絵本を読む場所」として定着させる上で、調査 6 までで改良にはいたらなかった課題点 (図 1 に●で示されている。調査 4 に 1 点、調査 6 に 2 点、合計 3 点ある) に対してどのような変更が可能と考えられるか。あなたのアイデアを述べなさい。

(200～300 字程度。図などを別途加えてもよい)

(2) おとなの意図による保育空間の設定と子どもによるその利用との関連について、この調査の過程からどのようなことが読み取れると思うか述べなさい。

(600～700 字程度)

出典：山田恵美 (2011) 保育における空間構成と活動の発展的相互対応—アクションリサーチによる絵本コーナーの検討。保育学研究 49(3) 20-28.

一部改変

《問題 1 資料》

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

問題2

以下の資料の記述をふまえ、小さな子どもが「寝る」ということについて「文化的営みとしての発達」という視点からあなたが考えることを述べなさい。(600字程度)

出典：バーバラ・ロゴフ(2006) 眞賀千賀子訳『文化的営みとしての発達』新曜社。
一部改変

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

問題 3

次の用語あるいは人名のうち 2 語を選び、それぞれ 200 字程度で説明しなさい。選択した語ごとに別の答案用紙を使用し、問題番号に加え、語の番号も明記して答えること。

- (1) 前操作期
- (2) 第三者評価
- (3) ミシェル・フーコー
- (4) ラポール
- (5) PD (プロフェッショナル・ディベロップメント)